

令和 5 年度 済生会総会 総裁 秋篠宮皇嗣殿下お言葉

令和 6 年（2024 年）1 月 28 日（日）

はじめに、元日に石川県能登地方を震央とする最大震度 7 の地震が発生し、それに伴う建物の倒壊や火災、津波による浸水などにより、石川県を中心に甚大な被害が生じております。亡くなられた方々に深く哀悼の意を表します。

このたびの済生会学会と総会には、被災県にある金沢病院からも出席されていると伺っていますが、皆様の中には、震災による影響を受けたり、身近な人が被災されたりした方もおられるのではないかと思います。ここにお見舞いを申し上げますとともに、被災地の復旧・復興を心より願っております。

また、今回の災害におきまして、済生会は、要請により発災翌日から DMAT の派遣を開始いたしました。現地では困難な状況の中、医療関係者をはじめ多くの本会職員が献身的な尽力をされており、これら関係者に改めて敬意を表します。

本日、「令和 5 年度 済生会総会」が、来賓ならびに全国の済生会支部および施設から多数の参加を得て、ここ熊本市において開催されますことは誠に意義深いこととあります。

済生会は、明治 44 年、1911 年に明治天皇の済生勅語により創立されました。爾来、本会を支えてこられた先人、そして皆様方のたゆまぬ努力により、今では日本最大の医療・福祉団体となり、日本の医療と福祉の場を支えております。

熊本県内では、熊本病院、みすみ病院が公的医療機関として地域に必要な医療を提供しているほか、熊本福祉センターでは障がい福祉サービスを提供するなど、各施設の職員は昼夜を問わず懸命に医療と福祉の推進に取り組んでおられます。

ここ熊本県におきましては、2016 年 4 月に大きな地震がおこり、私は震災後の 6 月、熊本病院と熊本福祉センターを訪問いたしました。熊本病院は 2 度の大地震と断続的な余震の影響で設備やライフラインが不安定な中、地域の救急医療を支えました。また、多くの職員が自ら被災しながらも、負傷者の手当、地域住民の避難・受入れに尽力されていたことに深い感銘を覚えたことを思い出します。

さて、昨年 9 月のことになりますが、私は日本とベトナム社会主義共和国との外交関係樹立 50 周年にあたり、ベトナムを訪問しました。その折りに、済生会の病院で研修を受けたダナンがん病院の医師 11 名と懇談する機会を得ましたが、その中で、済生会の病院で学

んだ医療技術をダナンがん病院で活用し、医療サービスの向上に役立てているとの話を聞くことができ、大変嬉しく感じました。また、COVID-19 のパンデミックのため、現在、中断している研修について、早急な再開を期待しているとの話もあり、済生会が果たしている国際的な役割についても強く感じた一時でした。

COVID-19 も 5 類感染症に移行し、感染症と共存する時代に入りました。このような歴史的な転換期において、済生会が担う事柄は多岐にわたることと思います。「施薬救療」の精神の下、全ての役職員が一丸となって地域住民の健康と暮らしを支え、より一層大きな役割を果たしていくことを希望いたします。

おわりに、本日表彰を受けられる方々をはじめ、これまで済生会の活動を支えてこられた多くの関係者の多年にわたるご尽力に対し、心より敬意と感謝の意を表するとともに、皆様が今後とも健康に留意されながら活躍されることを祈念し、総会に寄せる言葉といたします。